

地域共生社会



HELLO,
NEW
CITY.

新しいまちの暮らし
スーパースマートシティ
うつのみや始動



本市では、今後、社会環境が大きく変化する中で、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」の実現を目指しています。

今回は、「スーパースマートシティ」を構成する3つの社会のうちの1つ、絆を深め、共に支え合う「地域共生社会」が実現した未来の姿をご紹介します。

問 保健福祉総務課 ☎(632)29330



「地域共生社会」かあ。聞いたことはあるけど、漢字が並んでなんか難しそうだね。



そうかもしれないね。でも、実はそんなに複雑なことじゃないから、僕が分かりやすく説明していくね。まず、ミヤリーは、今の社会って生活を「支える側」と「支えられる側」が決まっていると思わない？



支援をする人と支援を受ける人の役割が決まってるってこと？言われてみれば確かにそうかも……。



「地域共生社会」は、そんな「支える側」と「支えられる側」という枠組みを超えて、それぞれが役割を持ち、住み慣れた地域で支え合いながら生活することができる社会なんだよ。



地域に住む誰もが、支える側にも、支えられる側にもなるってことだね！



そうそう！例えば、体が不自由でも、地域の子どもたちへの読み聞かせや地域の見守り活動に参加することができるよね。自分のできる範囲で誰かを支え、時には自分も支えてもらう「お互いさま」が当たり前になるのが「地域共生社会」なんだ！

「誰かが」ではなく「みんな」でつくる



「スーパースマートシティ」の実現は世界共通の目標である エス・ディー・ジーズ SDGs の達成にも寄与します



なるほど〜！でも、どうして今「地域共生社会」を実現しなきゃいけないの？

昔の地域社会は近所付き合い合いみたいな支え合いの仕組みが盛んで、個人や世帯では解決できない問題でも、地域のみんなで支え合ってきたんだ。でも、少子高齢化や価値観の多様化などによって、地域社会の支え合いの基盤が弱まってきているんだ。だからこそ、地域での人と人とのつながりが大切になってくるんだよ。
なるほどね！じゃあ「地域共生社会」を実現するには、どうしたらいいのかな？

今は、家族のあり方や生活スタイルも多様化しているし、外国人もいるよね。だからまず、地域にはいろいろな人がいることを知ることが大切だよ。みんなとつながり、それぞれの意見や出来ることを持ち寄って、地域の問題を解決するためのアイデアが出せる社会になるといいな。
すてき〜！早く実現した姿を見てみたいよ！
それじゃあ、次のページから、みんなでつくる「地域共生社会」が実現すると、生活がどう変わるか紹介するよ。

モデル1 得意を生かして支える地域共生社会

新たな生きがいの発見



鈴木さん(72歳)

専業主婦。最近、スマートフォンを初めて購入した。スマートフォンを使いこなして、友人や孫と連絡できるようになりたいと思っている。



馬場さん(75歳)

数年前に「デジタルボランティア」を始めた。デジタルが苦手な同世代に、スマートフォンやパソコンの使い方を広めたいと思っている。



モデル2 安心して暮らせる地域共生社会

困り事を丸ごと受けとめる



小林さん(83歳)

4年前に妻と死別し、現在は
ひとり暮らし。市内在住の娘夫婦
が、生後7カ月の子どもを連れ
て、定期的に様子を見に来てい
る。今後の自分の生活が不安。



関谷さん(63歳)

退職をきっかけに、3年前か
ら民生委員の活動を始めた。現
在は、同い年の夫との二人暮らし。
地域の人を支える活動にやり
がいを感じている。



モデル3 生き生きと支え合う地域共生社会

分野を超えたつながり



大森さん(22歳)

大学3年生。人と関わるのが苦手で、カウンセリングを受けている。現在、就職活動の準備中だが、生まれ育った町で、自分に合う仕事が見つかるか不安。



後藤さん夫妻(54歳)

イチゴ農家を営んでいる。自分たちのイチゴのおいしさを、もっとたくさんの人に知ってほしいと思っている。最近は、人手不足が悩み。

Panel 1: Daiki is at a career center. A staff member says, "You've come out! This farmer's internship is something you can do!"

Panel 2: A flowchart shows "Required items" (性格, 特技) and "Desired conditions" leading to job options. Daiki is looking at a smartphone app.

Panel 3: Daiki explains the app: "If you're looking for a job, the 'Job Matching App' recommends jobs for you." He says, "It's... I'm not good at interacting with people, so finding a job that fits me is difficult..."

Panel 4: A staff member asks, "Are you looking for a job activity? If you have any concerns, please let us know!"

Panel 5: Daiki says, "I'm a bit nervous about many things, but I'll support you!"

Panel 6: Gotoh's family is excited. The wife says, "I'm interested in it! There are students here!"

Panel 7: A circular diagram shows the "Internship Start" with scenes of Daiki working in a field, packing strawberries, and interacting with Gotoh's family.

Panel 8: Daiki says, "I went to the farmer's strawberry internship, and it was so nice to eat strawberries from the people I wanted to eat!"

Panel 9: Gotoh's family says, "That's great! If you can, please plan and develop products in cooperation with the local university and companies!"

Panel 10: Two years later, Daiki says, "I'm interested in making strawberries, and people who can help me are increasing, which is so nice!"


Panel 11: Gotoh's family says, "If you can, please plan and develop products, even after graduation, can you work together?"

Panel 12: Daiki says, "Of course!"


モデル4

誰もが集う地域共生社会

モノとヒトのマッチング



飯田さん(73歳)
 数年前に、夫婦で営んでいた定食屋を閉め、にぎやかで活気があったころを思い、寂しさを募らせている。また、空き店舗の管理に悩んでいる。



中川さん(29歳)
 コミュニティビジネスに興味がある。地域の人々の居場所となるカフェの開店を検討しているが、物件が見つからずに悩んでいる。



自分希望を登録して
 賛同してくれる人を待っただけか!

「SAGASERU」?
 サガセルの地域の資源と人のマッチングができるんだ!
 これはいいかも!

誰かが気軽に集まれるアットホームなカフェを開ける場所はないかな……

一方その頃

これからこの建物はどうしようか……

「SAGASERU」?

この中川さんに私の店を使ってもらいたいな

よし! 連絡してみよう

ぜひここでカフェを開かせてください!

素敵なお店ですね! とっても気に入りました!

もちろんです! 好きに使ってください!

「SAGASERU」?

ありがとうございます! 実はこちらはお店を開く準備はできています!

それは頼もしい! よろしくお願ひします!

後日

飯田さん いらっしやいませ! お店はいかがでしょうか!

誰もが気軽に集える素晴らしい場所になりましたね!

中川さん、本当にありがとうございます!

開店の協力したいです!

SAGASERU

私たちができること。

地域共生社会の実現につながる活動に取り組んでいる皆さんに、それぞれの視点から話を伺いました。

みんなの居場所をつくるために



ITアットうつのみや

元理事長 平澤 典雄さん (左)
理事長 伊藤 元幸さん (右)

私たちは、NPO法人としてパソコン教室を開いています。そのきっかけとなったのは、以前、宇都宮市が主催していたパソコン講座の運営を担っていたことでした。この講座は、10年ほどで終了しましたが、私たちは、もっと学びたい人のために何とかしようと思いい、NPO法人「ITアットうつのみや」を立ち上げ、パソコン教室を続けています。

現在、大切にしているのは、教室に来た人が安らげる環境を作ること。教室の参加者は5〜10人程度ですが、休憩のお茶タイムなどを通して、終わるころにはみんなが友達になっています。パソコンをゆつくりと楽しみたいと思っています。



▲パソコン教室

未来の私たちのために

まちづくりに取り組む際、まず地域住民を対象にアンケートを行い、地域の現状やニーズを分析し、また、有志の集まりで福祉の勉強会を実施しました。これを踏まえ、現在は、第2層協議体^(※1)において、福祉協力員や民生委員、自治会と協力し、地域住民の居場所づくりなどに取り組んでいます。

助け合い、支え合う地域共生社会を実現するには、私たちが行うような仕組みづくりも必要ですが、最も大切なのは地域の皆さんがまちづくりに参加することだと考えます。支える人、支えられる人は固定された立場ではなく、循環するものです。今、地域の人を支え、まちづくりに参加することは「未来の私たちのため」になるのではないのでしょうか。

地域住民も、地域の外から来た人も、誰にとっても住みやすい地域にするために、みんなで少しずつ取り組んでいけたら良いですね。



清原地区第2層協議体
地域包括支援センター清原

センター長 塩澤 達俊さん

全市一丸となって「地域共生社会」の実現を

本市においては、人口減少や少子超高齢化のさらなる進行、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、地域社会での支え合い機能の低下が懸念されています。

そうしたことから、今回、「誰かがではなくみんなで作る地域共生社会」を特集しました。この社会は、支え合いによって、市民一人ひとりが輝く社会であり、その実現のためには、市民の皆様と協働して取り組んでいくことが重要です。

今回、私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、気軽に会いたい人と会えない不自由な生活を経験し、改めて、人と人との「つながり」の大切さを実感したところです。

だからこそ、「今、できること」に共に取り組み、地域に思いやりがあふれ、絆を深めながら、支え合うことができる「地域共生社会」の実現を全市一丸となって目指していきましょう。



宇都宮市長
佐藤 栄一

※1 第2層協議体 地域のまちづくりや福祉の団体などが参画し、地域の高齢者を支えるために、地域における見守り活動やボランティア活動、居場所づくりなど、「地域でできること」を検討する場です。

さまざまな特性を持った人と共に働くために



黒崎農園
代表 黒崎 浩史さん

業所が、この取り組みに賛同してくれると良いですね。



▲感謝状

私の農園では、加工用ニンジンを栽培していますが、収穫の際の人手不足に悩んでいました。そんな中、「農福連携」セミナーを受講し、障がい者作業所の「恵友会ひびき」に作業を依頼しました。

作業に来てくれる皆さんは、私の期待していた以上の戦力となり、今では、なくてはならない存在です。

この取り組みが評価され、県の土地利用型園芸コンクールでは、優秀賞をいただきました。また、私からも共に頑張ってくれた「恵友会ひびき」へ感謝状を贈りましたが、受け取った皆さんの笑顔は忘れられません。

今後は、農福連携を通じて、たくさんの人と一緒に働きたいと思っています。もっとたくさん障がい者作業所が、この取り組みに賛同してくれると良いですね。

より良い地域をつくるために

自治会に入る人を増やすには、地域の皆さんに活動を楽しいと思ってもらうことが大切ですからね。

また、民生委員が声を掛け、有志で立ち上げた老人クラブは、社会奉仕活動やクラブ活動、会員への誕生日プレゼントなどを通して、高齢者の見守りに役立てるなど、地域になくしてはならないものとなっています。

地区社会福祉協議会と自治会が共に活動し、皆さんを巻き込んでより良い地域をつくっていききたいですね。

地区社会福祉協議会では、地域の皆さんが参加できる、餅つきや福まさなどのイベントを企画しています。こういったイベントは、地域の人を知り、見守るきっかけになります。

さらに自治会では、ボランティアが運営する駄菓子屋「ちび天堂」を開いています。多いときは、1日に50人ほどが訪れ、学校終わりの子どもや昔を懐かしむ高齢者の居場所となり、交流が生まれています。



宮の原地区社会福祉協議会
会長 林 タケさん (左)
宮の原地区単位自治会
会長 石塚 雅一さん (右)

最優秀賞には5万円相当の副賞を進呈

読者の声をお聞かせください

広報うつのみや^{プラス}は、年に数回編集します。市HPまたは55ページのはがきで、テーマに対するご意見をお寄せください。

広報うつのみや+

ID 1029459

「誰かが」ではなく「みんな」でつくる地域共生社会



▲市HP

についての問い合わせ先

保健福祉部保健福祉総務課

☎(632)2930、FAX(639)8825

✉u1901@city.utsunomiya.tochigi.jp

地域共生ロゴマークを募集します

- ▼募集内容 「地域共生」のキャッチコピーを添えて、「地域共生」のイメージを視覚的に表現したもの。制作方法は、手書きまたはデジタル。
- ▼対象 市内在住か通勤通学者。
- ▼応募期限 8月19日(消印有効)。
- ▼その他 応募方法など、詳しくは、市HPをご覧ください。保健福祉総務課☎(632)2930へ。

ID 1029523



▲市HP